



# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2026 April to June, vol. 230

京都国立博物館

だより

二〇二六年  
四・五・六月号

特別展

北野天神

予告！ 特集展示

辰馬考古資料館の名品

— 鉄斎との交友、  
考古学に寄せるまなざし —

【特別展】

# 北野天神

令和8年4月18日(土)～6月14日(日)

【主な展示室】

前期展示 4月18日(土)～5月17日(日)

後期展示 5月19日(火)～6月14日(日)

※会期中、一部の作品は右以外にも展示替えまたは考査を行います。

【平成知新館】

京都の北西、天門の地にある北野天満宮は、菅原道真を祭神としてまつる御社です。令和九年(二〇二七)、道真薨去から一二五年目の式年大祭「半萬燈祭」が執り行われることを機に、北野天満宮に伝わる国宝・重要文化財(美術工芸品)十七件を中心とした、全国の天神信仰ゆかりの品々を一挙に公開する特別展を開催いたします。

本展では、史上初めてとなる北野天満宮所蔵の国宝《北野天神縁起絵巻(承久本)》全巻全場面公開をはじめ、重要文化財に指定されている《北野天神縁起絵巻》の弘安本、光信本、光起本ほかを展示し、天神信仰誕生の場面に迫ります。また、京都国立博物館と北野文化研究所の調査によって新たに見出された作品や、日本各地の天満宮・天神社ゆかりの社寺に伝わる貴重な品々を紹介いたします。

日本各地に広がった天神信仰を、その発祥の地・北野天満宮からたどり、これまであまり語られてこなかった多様な側面と、日本文化の中で果たしてきた重要な役割を知っていただく機会となりましたら幸いです。

(末兼俊彦)

## 第一章 天神信仰

菅原道真は承和十二年(八四五)に生まれ、父である菅原是善と同じ文章博士を経て、宇多天皇の側近としてその政治手腕を発揮しました。しかし、藤原時平の讒言により九州へ左遷、京に戻ることなく延喜三年(九〇三)に薨去しました。道真の死後ほどなく時平が没し、さらに京で災害や落雷などの凶事が重なり、それらが無念の死を遂げた道真の仕業とされるようになります。怨霊としてその存在が意識されるなか、道真を祀るよう京の内外で託宣が下り、天曆元年(九四七)、京の北西・北野の地に設けられた祠が北野天満宮の始まりです。天徳三年(九五九)の藤原師輔による社殿の造営後は、「天満宮天神」や「天満天神廟」の神号が用いられるようになり、しだいに善神としての性格を帯びたことで、生前の学識詩才をたたえて「天神は文道の祖、詩境の主」とする信仰が芽生えました。

## 第二章 北野天満宮の歴史

北野の地に道真が祀られるまでの経緯には、宗教的説話と歴史的事実とが混在しています。そのため実際の当地における道真への信仰が、どのように発生・展開したのかについては一層の検討が必要ですが、十世紀半ばには天神に対する信仰が根付いたと考えられています。怨霊を鎮める御霊信仰から始まった天神信仰は、火雷神や疫神、武神といった存在を内包しつつ、雷神信仰から農業神となり、また生前の学識と詩才になぞらえて漢詩や和歌、学問の神に、さらには晩年の不遇を反映して冤罪救済の神ともなりました。その神威たるや大きく、「王城鎮守の神」として天皇や仇敵であるはずの藤原氏の尊崇も受けることになったのです。道真が神となるまでの生涯に加え、こうした北野社草創の由来とその霊験譚を集めた絵巻物が「北野天神縁起絵巻」です。

## 第三章 北野天満宮と芸能・文化

時代によって変容する天神信仰と北野天満宮は、文化揺籃の地といえます。「文道の祖、詩境の主」とみなされた天神ですが、近世に入ると和歌の神として広く崇敬され、天皇や上皇、公家らが自ら詠んだ和歌を懐紙や短冊に記して奉納しました。また、出雲大社の巫女と伝える阿国の舞台が北野の地で開かれ、のちに歌舞伎へと発展したことはよく知られています。一方、崇りをもたらす恐ろしい怨霊という範疇を飛び越えて、武威をあらわす武神としても崇敬されるようになります。ここでは、天神信仰の芸能と文化、そして武の側面を伝える、絵画や能面、刀剣や甲冑も紹介します。

### ◆ 国宝《北野天神縁起絵巻》

(承久本)とは

平安時代を代表する政治家・学者の一人である菅原道真の生涯と、彼が死後、神としてまつられる様子をつづった絵巻です。「北野天神縁起絵巻」は古来、数多く作られました。本文に承久元年(一一一九)の年号をもつ通称「承久本」は、最古かつ最優品です。大きさはおよそ縦五十二センチメートル。現存する日本の絵巻として最大の画面高を誇り、ダイナミックで躍動感あふれる人物や風景の表現とあわせて、鎌倉時代を代表する絵巻の一つとして長らく称えられてきました。また、承久本は一部が下絵のまま残されており、壮大ながら未完であるという、謎めいた制作事情も魅力の一部となっています。

### ◆ 平安時代の学者・政治家 菅原道真

菅原道真は承和十二年(八四五)、文章博士・菅原是善の三男として生まれました。長じては宇多天皇の信任を得、父と同じく文章博士を経て蔵人頭や参議、式部大輔の役に就いて天皇の側近としてその政治手腕を発揮しました。寛平六年(八九四)の遣唐大使に任命された際は、唐の政情不安を踏まえて遣使の再検討を建議するなど、国政の重要な局面で存在感を示したことも有名です。醍醐天皇の世となって右大臣に昇進した道真ですが、讒言により大宰府外帥として九州へと左遷され、大宰府で没しました。本展では、遺愛の品と伝わる品々を紹介いたします。



### 神となった道真、現存最古級の天神像



東帯天神像(根本御影) 京都・北野天満宮 (5月5日～6月14日展示)

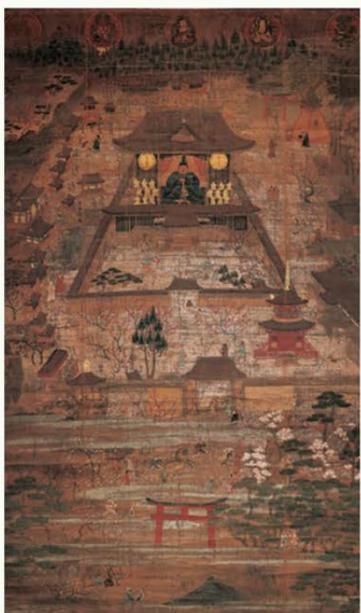
### 道真が愛用したと伝わる遺品



国宝 伝菅公遺品のうち玳瑁装牙櫛・銀装革帯 大阪・道明寺天満宮 (5月12日～6月14日展示)

### ◆ 天神と十一面観音

仏教の伝播と受容の過程で、「神道の神は仏教の仏(本地)が日本の衆生を救済するために仮の姿をとって降臨したもの(垂迹)」とする思想が生まれました。このように神と仏を同一視する考えを神仏習合と呼び、天神は十一面観音と合体とされました。そのため、真言宗や天台宗との繋がり生まれ、特に長谷寺の十一面観音とは深い関わりがあります。



北野宮曼荼羅図 京都・北野天満宮 (前期展示)

### 室町時代の北野社 神仏習合の風景



十一面観音立像 京都・曼殊院(通期展示)

### かつて北野社に祀られた 平安時代の十一面観音像

### 鬼切の太刀が羅城門の鬼を討つ



羅城門絵巻 上巻(部分) 京都国立博物館 (前期展示)



武神としての側面も！  
奈良・與喜天満神社に奉納された大鎧  
重要文化財 赤糸威鎧 大袖付 奈良・長谷寺 (前期展示)

### ◆ 源氏の重宝、兄弟刀揃い踏み！

北野天満宮と大覚寺に伝えられた二口の太刀は、様々な逸話をもっています。鬼を切ったというのその一つ。「羅城門絵巻」は、有名な源頼光の鬼(酒呑童子)退治の後日譚を描いた絵巻です。この絵巻では、頼光に仕えた四天王の一人、渡辺綱が主人公となり、羅城門に住む鬼を名刀「膝丸」で、頼光を病にした牛鬼を「髭切」で退治した物語として、清和源氏ゆかりの名刀の由来が語られます。

重要文化財 太刀 銘「忠 薄緑・膝丸」京都・大覚寺(通期展示)



重要文化財 太刀 国綱卜銘ガアル「鬼切丸・髭切」京都・北野天満宮(通期展示)



### 北野社で歌舞伎踊りを開始 出雲の阿国を描く名品

重要文化財 阿国歌舞伎図屏風 京都国立博物館 (前期展示)

国宝《北野天神縁起絵巻(承久本)》  
展示予定詳細

|        |                   |                  |                  |                   |
|--------|-------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 前期     | 4/18<br>~<br>4/26 | 4/28<br>~<br>5/4 | 5/5<br>~<br>5/10 | 5/12<br>~<br>5/17 |
|        | 巻第一 第一段、第二段       |                  |                  |                   |
|        | 巻第二 第一段、第二段       |                  |                  |                   |
|        | 巻第三 第一段           |                  | 第三段              |                   |
|        | 巻第四 第一段           |                  | 第二段              |                   |
|        | 巻第五 第二段           |                  | 第一段              |                   |
|        | 巻第六 第一段、第二段       |                  |                  |                   |
|        | 巻第七 前半            |                  | 後半               |                   |
|        | 巻第八               |                  |                  |                   |
| 巻第九 前半 |                   |                  |                  |                   |

|        |                   |                   |                 |                  |
|--------|-------------------|-------------------|-----------------|------------------|
| 後期     | 5/19<br>~<br>5/24 | 5/26<br>~<br>5/31 | 6/2<br>~<br>6/7 | 6/9<br>~<br>6/14 |
|        | 巻第一 第三段           |                   |                 |                  |
|        | 巻第二 第三段、第四段       |                   |                 |                  |
|        | 巻第三 第二段           |                   |                 |                  |
|        | 巻第四 第三段、第四段       |                   |                 |                  |
|        | 巻第五 第三段           | 第四段               | 第五段             |                  |
|        | 巻第六 第三段、第四段       |                   |                 |                  |
|        | 巻第七               |                   |                 |                  |
|        | 巻第八 前半            |                   | 後半              |                  |
| 巻第九 後半 |                   |                   |                 |                  |



貞観12年(870)の春頃、道真は都良香邸で門下生が弓遊びをしているところに行き合った。良香は、道真が日頃勉強ばかりで弓は苦手だろうと思い、試しに射させてみると、見事に2発も中させた。

巻第二

(部分)  
(通期展示、この場面は  
5月5日~17日展示)



ある時、菅原是善が自邸でとても美しい5、6歳くらいの幼児を見つけた。幼児は父母もなく家もなく、是善を父にしたいというので、是善は大変感激し、以来大切に育てた。この幼児が後の道真である。

巻第一

(部分)  
(通期展示、この  
場面は前期展示)



大宰府での1年目の延喜元年(901)9月10日、ちょうど1年前に、天皇に詩を送り、感動のあまり帝自ら脱いだ衣を道真に賜ったことを思い出した。その恩賜の衣は、大宰府までたずさえてきて、都の形見として今も大切にしている。

巻第四

(部分)  
(通期展示、この  
場面は後期展示)



左遷の命令で、家族はバラバラになり、道真は幼い子供をともなって筑紫への旅立ちとなった。長年住み慣れた紅梅殿との別れを惜しみ「こちふかば句ひおこせよ うめの花 あるじなして 春をわするな」「さくら花 ぬしをわすれぬ 物ならば ふきこむ風に ことづてはせよ」と2首の歌を詠みおいた。

巻第三

(部分)  
(通期展示、この場面は  
5月5日~17日展示)



延長8年(930)6月26日、宮中清涼殿に落雷があり、臣下の数名に死傷者が出た。弓をとって立ち向かおうとしたものもいたが、すぐに蹴り殺されてしまった。これは、天満天神の眷属のうち、第三使者・火雷火気毒王の仕業だということだ。

巻第六

(部分)  
(通期展示、この  
場面は後期展示)



筑紫において道真は、自らが潔白であるという祭文を作り高山に登り、7日間にわたって無実を訴えた。すると祭文は天空高く舞い上がり、祈りが通じ、道真は「天満大自在天神」となった。

巻第五

(部分)  
(通期展示、この場面は  
5月5日~17日展示)



巻第九

(部分)  
(通期展示、この  
場面は前期展示)



巻第八

(部分)  
(通期展示、この場面は  
6月2日~14日展示)



承平4年(934)4月、大和国金峯山で修行中の日藏が突然死去し、またふたたび蘇生する事件がおこる。その間に日藏は、三界六道(仏教思想で、人々が輪廻を繰り返す迷いの世界)を巡歴した。

巻第七

(部分)  
(通期展示、この場面は  
4月18日~5月4日展示)

《予告》  
【特集展示】

# 辰馬考古資料館の名品

―鉄斎との交友、考古学に寄せるまなざし―

7月14日(火)～9月6日(日)  
※会期中、一部の作品は展示替えを行います。  
【平成知新館3F】1・2・2F―1・2

辰馬考古資料館は兵庫県西宮市に所在し、日本を中心とする東アジアの考古資料と富岡鉄斎の作品を軸に保管、研究、公開をおこなっている施設です。現在は建替えにともなって休館中であり、その間、京都国立博物館で辰馬考古資料館の収蔵品をお預かりしています。

辰馬考古資料館を設立した辰馬悦蔵(一八九二～一九八〇)は、京都帝国大学で考古学を志し、気鋭の学徒として研鑽を積みました。家業である酒造業を継いだ後も、考古学への情熱は冷めることなく、私財を投じて考古資料の蒐集・保全に尽力します。収蔵された資料はいずれも彼の深い考古学の見識に基づくもので、特に銅鐸については日本屈指のコレクションを誇ります。

また、辰馬家には悦蔵の祖父悦叟(一八三五～一九二〇)以来の富岡鉄斎(一八三七～一九二四)に関わる作品が収蔵されています。悦叟と富岡鉄斎は、書翰のやりとりや、時には鉄斎が辰馬家に逗留して作品を制作するなど、深い親交がありました。

本展覧会では、辰馬考古資料館が所蔵する考古・絵画の名品を一堂に展示します。銅鐸や富岡鉄斎の作品はもちろんのこと、東日本の縄文土器や土偶、江戸時代の文化人、木村兼葎堂(一七三六～一八〇二)の著作物など、も必見です。実業に携わりながら美術や考古学に深い造詣を示した辰馬悦叟・辰馬悦蔵の深いまなざしをたどっていきます。

(石田由紀子)



重要文化財 人面裝飾付注口土器  
茨城県福田貝塚出土



重要文化財 袈裟褌文銅鐸  
大阪府鹿谷寺出土

※いずれも辰馬考古資料館所蔵

よみもの

## 文化財レスキューの現場から ―被災地で見つめ直した文化財の価値―

京都国立博物館／文化財防災センター 中屋菜緒

令和六年(二〇二四)一月一日の能登半島地震発生から、約二年が経過した。国立文化財機構では、令和二年(二〇二〇)に発足した文化財防災センターが中心となり、被災した文化財のレスキュー活動を継続的に展開している。私は同センターの職員として能登の被災地に入り、活動に携わってきた。ここでは、私が文化財レスキューの最前線で経験した二つのエピソードを紹介したい。

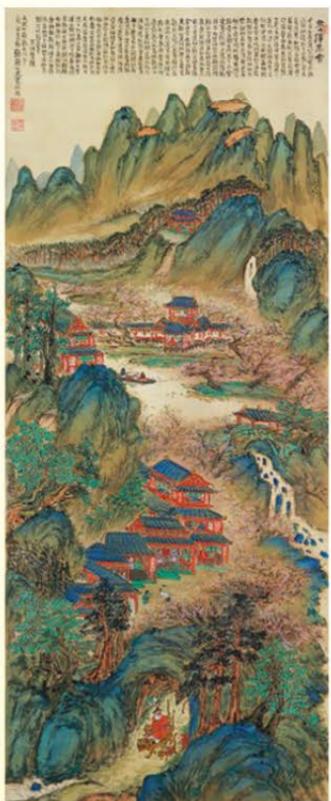
### ガラス瓶

倒壊の恐れがある土蔵から、資料を救出してほしいという依頼があった。所有者は震災直前にこの土蔵を買取ったばかりで、中に何があるのか把握できていない状況であった。土蔵が倒れる前に資料をすべて運び出すことになり、次々と資料が運び出された。所有者や文化財に携わる市町の職員とともに確認していた際、ある職員の手が止まった。「このガラス瓶、素晴らしいですね」。私には、どこにでもある牛乳瓶に見えた。しかし、そこには「〇〇牧場」の文字。かつてこの近くに存在したが、今は痕跡も残っていない牧場があった。その様子を見ていた近隣の住民は、「確かにここには牧場があった」と懐かしそうに当時を語ってくれた。

一見すれば廃棄の対象になりかねない「ガラス瓶」が、その土地の歴史を後世に伝える貴重な存在となった瞬間であった。

### 開祖様の掛軸

本堂が全壊被害を受けたお寺から、文化財を助け出すという現場での出来事である。瓦礫の山から文化財を探し出す作業は困難を極め、重機によ



群鶴高会図 富岡鉄斎筆  
(8月11日～9月6日展示)

玉堂富貴図 富岡鉄斎筆

### 「ミュージアムパートナー」

※令和8年3月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

- 「ゴールド」土屋和之  
株式会社 SCREEN ホールディングス  
株式会社 俄／一般財団法人 NISHA 財団
- 「シルバー」学校法人 二本松学院  
東レエンジニアリング株式会社／伊藤正人
- 「ブロンズ」原田清朗／片山明

### 「キャンパスメンバーズ」

※令和8年3月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として、文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会等さまざまな特典を提供しています。

- 学校法人 瓜生山学園／追手門学院大学  
国立大学法人 大阪大学／大阪大谷大学  
大谷大学／学校法人 大手前学園  
学校法人 関西大学／学校法人 関西学院  
国立大学法人 京都大学／京都華頂大学  
国立大学法人 京都工芸繊維大学  
学校法人 京都産業大学／学校法人 京都女子学園  
京都市立芸術大学／京都精華大学  
京都先端科学大学／京都橋大学／京都府立大学  
近畿大学／国立大学法人 神戸大学／四天王寺大学  
就実大学／成安造形大学  
国立大学法人 総合研究大学院大学  
学校法人 大覚寺学園／帝塚山大学  
学校法人 同志社／奈良大学  
国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学  
学校法人 二本松学院／花園大学／佛教大学  
学校法人 森ノ宮医療学園／学校法人 立命館  
龍谷大学

### ◆寄附

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の一〇〇〇年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記の方より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

- 杉本 淳子 様
- 劉 蕃 様
- Juniper Pine 様

る瓦礫の撤去と並行して行った。このお寺には数件の市町指定文化財があり、レスキュー隊はそれらの救出を第一目標に掲げた。本堂の倒壊からかなりの時間が経過しており、資料は泥にまみれ、雨水で損傷していたが、目標の指定文化財を含む多くの絵画や仏具類を救出することができた。安堵する私たちに、住職は言った。「開祖様の掛軸が見当たらない。あれが、うちにとって一番大切なのです」。私たちは活動を再開し、ついにその掛軸を探し当てた。掛軸が無事であることを確認した時の住職の喜びに満ちた表情は、今も脳裏に焼き付いている。

指定文化財という公的な枠組みを超え、所有者や檀家の心の拠り所となっているものの重みを、肌で感じた出来事であった。

被災地という過酷な状況下では、財源や時間、人員、保管スペースや資材といったさまざまな制約があり、救い出せる文化財には限界がある。一方、救出対象の安易な取捨選択はできない。なぜなら、そこには所有者、自治体の文化財専門職員、そしてレスキュー活動に携わった全員の「復興への希望」が込められているからだ。

文化財レスキュー活動では、「どこまでを文化財と認めるか」という問題に必ず突き当たる。しかし、その問いに唯一の答えはない。だからこそ、文化財に関わる人々の「想い」に寄り添い、ひとつひとつの文化財に宿る価値を掘り上げ、後世に伝えていくことが私たちの使命であり、永遠の課題である。

## 講座・イベント

### 《特別展「北野天神」記念講演会》

4月25日(土)「北野天神信仰からみる日本文化」

北野天満宮 宮司 橘 重十九氏

北野天満宮北野文化研究所 特別研究員 西山 剛氏

5月9日(土)「北野社ゆかりの絵画」

京都国立博物館主任研究員 森 道彦

5月23日(土)「広くて深い北野天神縁起絵巻の世界」

京都国立博物館主任研究員 井並林太郎

6月6日(土)「武芸の神、道真」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名。聴講無料(ただし講演会当日の特別展観覧券が必要)。

※参加ご希望の方は、各講演会3日前12時までに京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)よりお申し込みください。事前申し込み制、先着順(定員になり次第受付終了)。

### 《令和8年度夏期講座のお知らせ》

【テーマ】国宝再考Ⅱ

【開講日】7月24日(金)・25日(土) \*1日3講座、計6講座となります。

【会場】平成知新館 講堂

【定員】200名

【聴講料】3000円(税込)

※参加ご希望の方は5月12日(火)10時より京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)よりお申し込みください。事前申し込み制、先着順(定員になり次第受付終了)。講師・演題は4月中旬頃ウェブサイトに掲載予定。

## これからの展覧会

### ◆特集展示 辰馬考古資料館の名品

—鉄斎との交友、考古学に寄せるまなざし—

7月14日(火)～9月6日(日)

### ◆特集展示 アンダーグラウンド 地下に願いを—

7月14日(火)～9月6日(日)

### ◆特別展 源氏物語 王朝のかがやき

10月6日(火)～11月29日(日)

### ◆京都国立博物館の庭園を紹介する無料アプリケーション 「京博庭園ナビ」

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間：9：30～16：30

料金：無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

>詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X・Instagram

@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラりんサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>



### ◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：3月24日(火)～4月16日(木)

6月16日(火)～7月12日(日)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

### ご利用案内

【開館時間】<3月24日～4月16日、6月16日～10月4日>

9：30～17：00

<4月18日～6月14日>

9：00～17：30

\*金曜日は20:00まで開館

\*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】【特別展「北野天神」】

<4月18日～6月14日>

一般 2000円(1800円)

大学生 1400円(1200円)

高校生 900円(700円)

\* ( )内は団体20名以上。中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料(要証明)。

\* キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

【庭園のみ開館期間】

<3月24日～4月16日><6月16日～7月12日>

一般 300円、大学生 150円

\* 高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

\* キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

\* 有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

【休館日】月曜日(ただし5月4日(月・祝)は開館)

4月17日(金)

### アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。



\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和8年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM

